

東日本連携事業



背景

新幹線6路線が停車するなど、「東日本の玄関口」であるさいたま市は、国の首都圏広域地方計画においても「東日本の対流拠点」に位置付けられており、東日本の「ヒト・モノ・情報」が集まる「東日本の中枢都市」を目指しています。

現状の課題

東日本各地の共通の課題として、人口減少による地域経済の縮小や地域社会の担い手の減少、企業の人手不足などへの対応が必要不可欠となっています。

事業の目的

市域・県域を越えた広域連携を実施し、これまでになかった「ヒト・モノ・情報」の新たな流れを創出することで、さいたま市及び東日本各地の地域経済の活性化を目指します。

これまでの取組

平成31年3月に、東日本の交流拠点・情報発信拠点として「東日本連携センター（まるまるひがしにほん）」を大宮駅東口駅前開設し、東日本各地のシティプロモーションイベントや商談会等を実施してきました。



まるまるひがしにほん外観

東日本連携事業



事業内容

- 東日本連携・創生フォーラムの開催及びフォーラムで合意した連携事業の実施
- 「まるまるひがしにほん」を活用した東日本各地のシティプロモーションイベントや商談会等の実施 等

得られる成果等

- 東日本各地の観光誘客促進による交流人口の拡大
- 商談会等の実施による東日本各地の企業の販路拡大と地域経済の活性化
- 関係人口創出の取組による東日本各地のファンづくりへの貢献

寄附によるメリット

- 東日本連携事業の促進による東日本全体の地方創生への貢献
- 「まるまるひがしにほん」でのイベント実施等による、東日本の具体的な地域の地域経済活性化への直接的な応援
- 地方創生SDGsの取組を通じた企業価値の向上



まるまるひがしにほんで実施したシティプロモーションイベントの様子

